

一般入学選考 A 国語（一日目）

【一】

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

こんな会話が小学校の休み時間に繰り広げられていたのは、昭和30～50年代（1960～80年代）頃のことだろうか。日本は戦後の高度経済成長に沸き、戦中・戦後生まれの親たちは子どもの教育に熱心な目を向け、お稽古ごとにお金をかけるようになっていた。物質的にも精神的にも恵まれた環境で我が子を育てたいという親の願い。自らの子ども時代には叶えられなかつた夢や憧れが、いつそうした願望を強めていたかもしれない。ピアノという楽器はそんな親たちの願いの化身、一つの象徴といえる存在ではなかつただろうか。

ピアノはかつて、由緒正しい家柄のお嬢様のマスト・アイテムであった。昭和前期の伯爵令嬢の写真などをひも解けば、驚くほどピアノが登場している。こぎれいな洋装、膝に抱いた白い犬、何気なく寄り添うピアノ……。裕福な家庭の令嬢たちの所持品として、ピアノは欠かすことのできないシンボルなのだ。

高級なイメージの強いピアノであつたが、1960年頃からは日本の楽器メーカーが生産台数を飛躍的に⁽⁺⁾しばし、経済の急成長により一般のサラリーマン家庭でも手の届く価格帯となつた。そうとなれば、親たちはなんとかローンで楽器を購入し、我が子にもピアノを弾かせてやろうとする。彼らのニーズに^{(+)コタ}えるように（いやむしろ、ニーズを高めるために）、楽器メーカーの運営するピアノ教室が全国規模で広がりを見せ始めた。同時に、個人宅のピアノ教室も増え、エリートを養成する音楽大学付属の教室（桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」など。同教室は1949年に開設）も存在

していた。さまざまなタイプの音楽教室から、親たちは我が子に通わせる教室をチョイスできたのである。まさに、ピアノのお稽古ブーム到来である。

そんなわけで、当時はクラスの女子の大半（男子も少なからず）がピアノを習い、みな競うようにして自分が「どこまで進んだか」を話していたのだ。そこで一つの物差しになっていたのが「ブルクミュラー」である。いわゆる『25の練習曲』だ。「ブルクミュラー」とはあくまで作曲者の名前であつて曲集名ではない。（ア）、当時「ブルクミュラー」といえば、誰もが疑うことなく『25の練習曲』を指していた。ちなみに「ブルクミュラーは人である」というのは、この本を手にする読者であれば当たり前すぎる知識であろう。しかし我々「ぶるぐ協会」が活動を始め、手当たり次^(三)ダイにピアノの学習経験を訊き回っていた2006年当時は、「えっ、ブルクミュラーって人だったの?!」という声を何度も浴びせられたことだろう。音楽業界から一歩外にでれば、そんなものである。

話をもとにもどそう。「ブルクミュラーナに弾いてる?」「〈アラベスク〉だよ」「〈タランテラ〉だよ」と確認しあう昭和の少年少女たち。⁽¹⁾これはよく考えてみると、やや不思議なやりとりである。たとえば「バッハなに弾いてる?」という問い合わせら、『インヴェンション』や『平均律』などの曲集から挙げねばなるまい。「ショパンなに弾いてる?」ならワルツ、ノクターン、バラード、スケルツォのうちの何番なのか、といった話になる。（イ）、まずはどの曲集なのかを挙げなければ、話を進めることはできない。ところがブルクミュラーといえば、確実に『25の練習曲』の中のどれかと決まっている。暗黙の前提である。誰もブルクミュラーの100曲以上に及ぶ作品番号つきの作品から「どれかなあ……」などと考へる人はいるまい。当たり前に『25の練習曲』しか知られていないのだ。『18の練習曲』や『12の練習曲』もあるということを知っている少年少女は、ごく少数派だったかもしれない。

かつてピアノ教本の進み方には、「定番のコース」と呼べるものがあった。それは「バイエル」→「ブルクミュラー」→「ソナチネアルバム」という一連の流れで、それとヘイ行して「ハノン」や「チエルニー」や、バッハの『インヴェンション』が取り入れられるというケースだ。

この定番コースが、いつたいいつ、どのように定まり普及するようになったのかは気になるところだ。しかし、それを突き止めるのはなかなか至難の業だろう。コースの各教材がいつ日本にやつてきたのかを知るところが調査のスタート地点となるだろうが、それすら容易ではない。「バイエル」については、安田寛さんが『バイエルの謎』（音楽之友社、2012年）で明らかにした。日本に到来したのは明治13（1880）年で、ヨーロッパで1850年に初めて出版された30年後のことである（意外と早い！？）。日本が西洋音楽を取り入れるために設立した音楽取扱機関（現在の東京藝術大学の前身にあたる）に、外国人教師メーソンが持ち込んだのが最初なのだそうだ。「ブルクミュラー」も、明治期に日本にやつてきた。定番コースが定番となる経緯について、ここでは深入り調査をする余裕はないのだが、少なくとも昭和30年代には確実に浸透しきっていたことがわかる。というのは、昭和32（1957）年の音楽之友社版『ブルクミュラー 25のやさしい練習曲』の解説には、「いま日本で行われている代表的なピアノ入門コースでは、次のような図式になります」という説明とともに、⁽²⁾図のようなチャートが掲載されているのだ。

なんとわかりやすい図であろうか。この「代表的」なコースのチャートによれば、スタート地点は二つある。一つはドイツ人バイエルが作った通称「バイエル」の教則本、もう一つはフランス人ヴァン・ド・ヴエルドが作った『メトードローズ』である。ドイツ系は『チャルニー100番』へ、フランス系は『ABC』『ラジリテ』へと進むことになっている。この両流派を橋渡ししているのが、我らが「ブルクミュラー」ではないか！ ブルクミュラーはドイツで生まれ、フランスで活躍したというまさに両国と縁の深い作曲家だ。はからずも日本の「定番コース」において、彼ららしいポジションに納まっている。ちなみに両流派は最終的に『チャルニー30番⁽³⁾』で合流するといった構造となっている。

大手の音楽教室では、会社が独自に作成したテキストを使用しているし、個人の教室でも独自の進め方をする教師もいるだろう。また幼少期から専門的な教育をほどこすエリート養成教室では、このような「定番コース」には目もくれず独自メソッドを用いるのかもしれない。よつて、すべてのピアノ教室がこのコースに沿つていたわけではなかろうが、いわゆる「町のピアノの先生」の多くが、この流れを採用していたと思われる（なかでもバイエル派が圧倒的に多かつた気がする）。

ここで今一度、「定番コース」における「ブルクミュラー」の立ち位置を確認してみたい。

多くの子どもたちは「バイエル」を終了したら「ブルクミュラー」に入るケースがほとんどだった。「バイエル」には、なかなかにキヤッキーで楽しい曲もあるのだが、わりとタン調な練習が続くことや、個々の曲にタイトルがなく番号制であることも手伝って、最終曲まで終了するには、それなりの年月や苦労が（先生にも生徒にも）必要とされた。^(五)

その「バイエル」の卒業をもつて、いよいよ「ブルクミュラー」が手渡される。「バイエル」が赤や黄色の鮮やかな表紙（全音楽譜出版社版）、あるいは可愛らしい小鳥が舞う表紙（音楽之友社）だったのに対し、「ブルクミュラー」は少し小さな五線譜で印刷されたシンプルな青い表紙（当時普及していた全音版の場合）であった。それが実に大人っぽく、その楽譜をもつてレッスンに通う自分は、（ウ）ピアノの世界へと深く入っていくのだ……そう感じた昭和ピアノ少年少女は少なくあるまい。

「練習曲」とはあるが、個々の小品にはイメージしやすい詩的なタイトルがついている。飯田は全音楽譜出版社の旧版で育つた。今でもそれらのタイトルは忘れられない。というより、すっかり脳内に刷り込まれてしまっている。〈素直な心〉〈アラベスク〉〈子供の集会〉〈やさしい花〉〈さようなら〉〈小さな嘆き〉〈心配〉〈アベマリア〉〈貴婦人の乗馬〉……。それらのタイトルが想起させるイメージのみならず、各作品の曲想もガラリと雰囲気を変え、グッとくるメロディや躍动感あふれるリズム、さりげない転調の数々に満ちている。そこには、長い苦労のうちに「バイエル」を終えたピアノ少女が、やつと出会えた小さな「ロマン派音楽」の世界が広がっていた。そこに芸術的な香りすら嗅ぎとつていたのかもしれない。曲らしい曲を、ようやく自らの小さな手でピアノで弾ける歓びを、ここで初めて体験したのだった。

（エ）子どもの数が多かつたお稽古ブーム時代には、兄弟姉妹でピアノを習っていたケースも少なくない。すでに兄や姉が弾いていた「ブルクミュラー」を耳から仕入れ、「早くあの曲が弾きたい」という憧憬、強い意欲をかき立てられた少年少女も多かつたことだろう。

まさに心を驚づかみにされるような音楽体験。それをクラスのお友達と「今、ブルクミュラーなに弾いてる？」と語り合

い、Aし、その喜びを共有せずにいられただろうか。

定番コースの先のチャートでは、「ブルクミュラー」の25曲が終わると『チャルニー30番』に進むことになっていたが、多くの生徒が次に「曲らしい曲」として与えられたのは「ソナチネアルバム」というケースが多いのではないだろうか。クラウやクレメンティなど古典派の作品を収録した、これまた気品と愛らしさに満ちた実に楽しいアルバムである。しかしこの曲集に進む頃、多くの生徒は小学校高学年あるいは中学生となつており、さまざまな理由（練習が苦痛、部活動や勉強が忙しい、ピアノの先生との相性、親の意向など）をもつてして、ピアノを辞めてしまうことが少なくなかつた。

(オ)、ピアノ演奏の思い出といえば「ブルクミュラー」でストップしている人たちも多いはず。そのせいか、彼らはその後、クラシック音楽をあまり聴かない生活を送っていても、ブルクミュラーのピアノ曲だけは心のどこか奥深いところに残されている。そして、〈アラベスク〉の出だしの四つの和音を「チャン、チャン、チャン、チャン」とスタッカートつきで聞いてしまうだけで、「それ知ってる!」「ああ、懐かしい!」と反応できてしまつたりするのだ。

一方で、バッハの宗教音楽に詳しく、マーラーの交響曲に心酔するようなコアなクラシック音楽ファンの大人でも、子ども時代に自分や周囲の人がピアノを習っていなければ、「ブルクミュラー」と聞いても「誰それ?」とピンとこない顔をするから面白い。

「ブルクミュラー」という言葉——日本においてそれは、人名である以前に『25の練習曲』を意味し、また同時にピアノが弾けるようになった「あのレベル」⁽⁷⁾を暗黙のうちに示してきた。今日でも、ピアノ教材のレベルを指す言葉として「ブルクミュラー程度」という用語が定着している。「シユーマン程度」「ショパン程度」という言葉はありえないことを考へると、この言葉の不思議さが見えてくる。

また人によつては「ブルクミュラー」というBは、ピアノが弾けた歓びや楽しさを呼び覚ます言葉である一方で、お稽古で先生から叱られて、ほろ苦い感情を覚えた少年少女時代を思い出させるものかもしれない。お稽古ブーム時代、「ピアノの先生」はしばしば恐い存在として語られた。レッスンでは教師の愛情深さのあまり、非常に厳しい言葉が投げられ

たり、場合によつては手や足が出る（！）ケースもあつたと聞く。「言葉の暴力」「体罰」などと今日では批判に晒されるようなことが、当時の学校教育と等しく、町のピアノ教室でも平然と行われていたのだ。そんな激しい教育環境の時代にあって、ピアノ学習を経験した者たちには、「ブルクミュラー」とは記憶のスイッチなのである。ブルクミュラーという名、個々の曲のタイトル、そして何よりその曲を耳にすると、我々の胸の内には幸福な思い出・辛い思い出がないまぜとなつて押し寄せるのだ。

このように、我々が「ブルクミュラー」と呼ぶものは、実に C なのである。

（飯田有抄・前島美保『ブルクミュラー25の不思議』⁽⁸⁾より。文中省略あり。）

〔問二〕 太線――部(一)～(五)のカタカナ部分に当てはまる漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|----------|---------|
| (五) タン調 | (四) ヘイ行 | (三) 次ダイ | (二) コタえる | (一) ハばし |
| ① 短 | ① 平 | ① 題 | ① 答 | ① 伸 |
| ② 端 | ② 並 | ② 内 | ② 堪 | ② 延 |
| ③ 担 | ③ 丙 | ③ 提 | ③ 応 | ③ 鍛 |
| ④ 単 | ④ 併 | ④ 弟 | ④ 了 | ④ 乃 |
| ⑤ 嘆 | ⑤ 柄 | ⑤ 第 | ⑤ 承 | ⑤ 期 |

〔問一二〕 空欄（ア）～（オ）に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① いよいよ ② さもなくば ③ しかし ④ よつて
⑤ つまり ⑥ ところで ⑦ なるほど ⑧ ましてや
⑨ ますます ⑩ あるいは

〔問三〕

傍線――部(1)「これはよく考えてみると、やや不思議なやりとりである」のはなぜなのか、もつともふさわしい

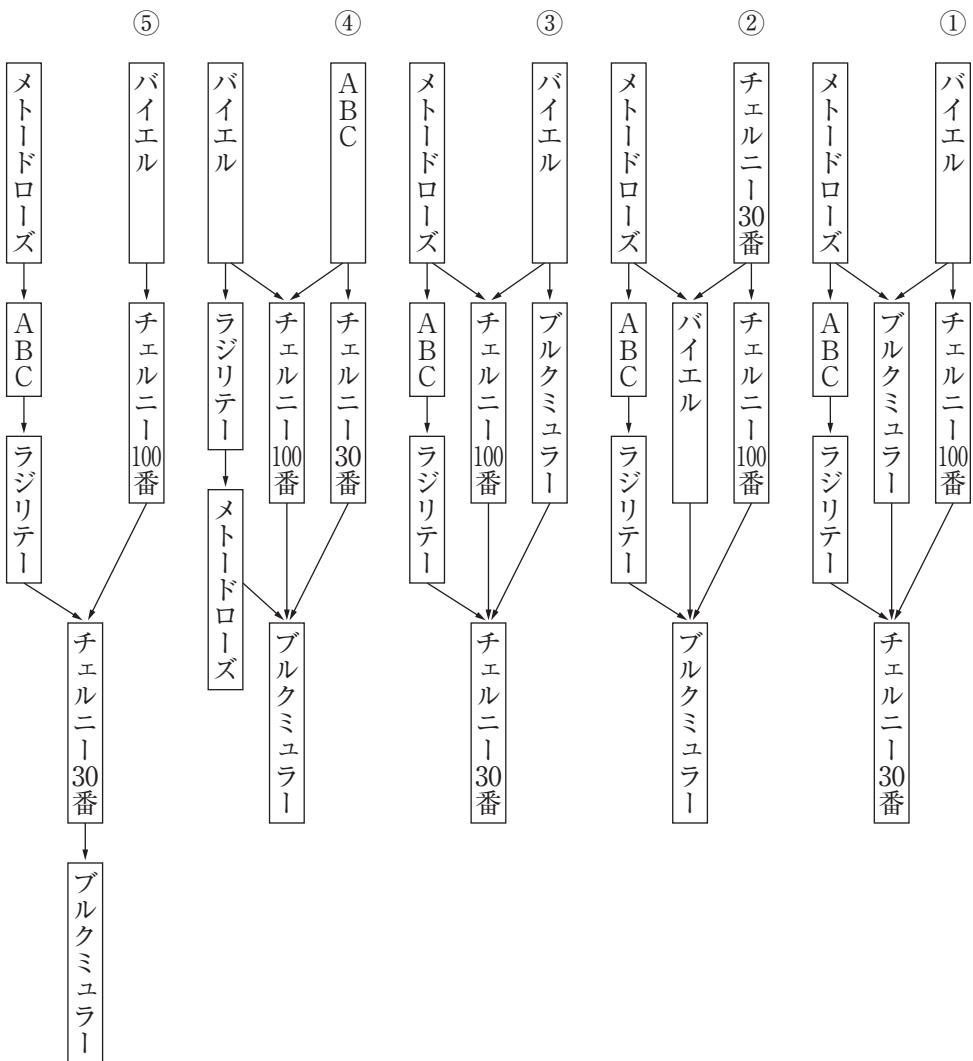
理由を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「アラベスク」や「タランテラ」は曲名ではなく、曲集の名前だから。
② 曲名を挙げただけで、『25の練習曲』の中の曲だと決めつけられているから。
③ 曲名を挙げただけで、ブルクミュラーの曲だと決めつけられているから。
④ 曲名を挙げるだけのことと、確認しあう必要がある様子だから。
⑤ 作品番号を挙げなければ、100曲以上に及ぶ作品からどの曲なのか判別できないから。

〔問四〕

傍線――部(2)

「図のようなチャート」としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。



〔問五〕 傍線——部(3)『チャエルニー30番』と同じ意味の「番」はどれか、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 定番
- ② 作品番号
- ③ 練習曲第三番
- ④ 三番勝負
- ⑤ 番茶

〔問六〕 傍線——部(4)「いわゆる「町のピアノの先生」」の説明としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 大手の音楽教室に属さず、エリート養成をするわけではないが独自の教育をほどこす、個人経営のピアノ教師。
- ② 大手の音楽教室に属さず、エリート養成など独自の教育をほどこすわけでもない、個人経営のピアノ教師。
- ③ 大手の音楽教室に属しているが、エリート養成など独自の教育をほどこすわけでもないピアノ教師。
- ④ 大手の音楽教室に属しているが、エリート養成など独自の教育をほどこすわけでもないピアノ教師。
- ⑤ 大手の音楽教室に属していることもあるが、エリート養成など独自の教育をほどこすわけではないピアノ教師。

〔問七〕

傍線――部(5)「飯田」とは誰のことか、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① この文章の著者
② 著者が取材した昭和ピアノ少年少女の一人
③ 「ブルクミュラー」全音楽譜出版社版の編集者
④ 「ブルクミュラー」音楽之友社版の編集者
⑤ 「ブルクミュラー」の普及に努めた教師

〔問八〕

傍線――部(6)「ロマン派音楽」の特徴としてふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 心を驚づかみにするような体験を与えてくれる
② 曲らしい曲を小さな子どもでも自分の手で弾ける
③ グツとくるメロディや躍动感あふれるリズムがある
④ 詩的なタイトルのつけられた作品ごとに曲の雰囲気が大きく変わる
⑤ 色鮮やかであつたり、可愛らしい小鳥が舞うなど詩的でイメージしやすい曲想

〔問九〕

空欄

A

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 毁誉褒貶^{へん}
② 片言隻句
③ 切磋琢磨^{せきたく}
④ 百戦錬磨
⑤ 自画自賛

〔問十〕 傍線――部(7)「あのレベル」と、「あの」が付けられている理由としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① レベルとして高いものであることに敬意が払われているため。
- ② 具体的に定まった難易度がイメージできることを強調するため。
- ③ なんとも表現しがたいものの、確かに存在するレベルであるため。
- ④ 口に出すのもはばかられるほど秘密にすべきレベルであるため。
- ⑤ ピアノを弾ける人なら誰もが同じような達成感とともに思い出すレベルであるため。

〔問十一〕 空欄 B に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 普通名詞 ② 固有名詞 ③ 代名詞 ④ 形式名詞 ⑤ 転成名詞

〔問十二〕 傍線――部(8)「記憶のスイッチ」とはどういうものなのか、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 過去のつらい記憶を幸せな思い出に変えるもの
- ② 過去の様々な記憶を整理し思い出しやすくするもの
- ③ 過去の様々な記憶が蘇るきっかけのようなもの
- ④ 過去の記憶を何度も繰り返し呼び起こすもの
- ⑤ 過去の記憶に対する気持ちを切り替えるためのもの

〔問十三〕

空欄 C

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 多義的 ② 衝擊的 ③ 一義的 ④ 魅力的 ⑤ 劇的

〔問十四〕 本文に対する説明としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ブルクミュラーの旧表記「ブルグミュラー」にちなんだ「ぶるぐ協会」の活動を著者たちがする中から書かれた。
② 愛情深さのあまりとはいえ、教師が厳しい言葉を投げかけたり、平然と体罰を行つたりする当時の音楽教育を批判しようとして書かれた。
③ 昭和前期の裕福な令嬢たちは多くは「ブルクミュラー」を使ってピアノのレッスンを受けていたことを明らかにしている。
④ コアなクラシック音楽ファンは、バッハの宗教音楽に詳しく、マーラーの交響曲に心酔するようでなければならぬことを主張している。
⑤ ピアノ教本の定番コースの最後には『チエルニー30番』ではなく、「ソナチネアルバム」を配置するのがよいと提案している。

【二】

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

アイヌは縄文人の形質的な特徴をよく残し、縄文人の末裔(一)であるといわれます。そのため狩猟採集の暮らしおくつていった近世のアイヌ社会は、縄文時代から大きく変わらなかつたと考えられがちです。

たとえば文化人類学者の渡辺仁は、近世のアイヌ社会のありかたを、自然利用の視点から「アイヌ・エコシステム」としてモデル化し、そのモデルは縄文時代の社会を復元するために有効であると考えていて（渡辺一九七七）。そしてこの説は、その後の考古学やアイヌの研究に支配的といつてよいほど大きな影響をおよぼしてきました。これは「変わらなかつたアイヌ」論といえるでしょう。

アイヌの文化は縄文時代以降、時代によつて大きく変化してきました。（ア）渡辺が問題にしているのはそのことでなく、社会の基礎をなす自然利用のありかたは変わらなかつたという点です。では、アイヌの自然利用はほんとうに変わらなかつたのでしょうか。

私は、アイヌにとつて日本との交易が大きな課題となつた一〇世紀以降、かれらが本州への交易品であつた毛皮や干鮭(無塩の素干しのサケ)、高価な矢羽として珍重されたオオワシの尾羽などの生産に特化し、サケの遡上河川や産卵場、あるいはロシア沿海州から渡つてくるオオワシの飛来ルートなどに沿つて地域社会を再編しながら、それらの獵・漁に積極的に従事してきましたと考へています。

つまり渡辺がアイヌの古老から聞きとり、アイヌ・エコシステムとよんだものは、縄文時代から変わらなかつた自然利用や社会のありかたではなく、アイヌが交易民として生きるなかでつくりあげてきた、歴史的な姿にほかならなかつたのです。この「変わらなかつたアイヌ」論は、事実に即していなければかりでなく、アイヌのイメージの形成に大きな弊害をもたらしてきました。

国語学者・アイヌ文化研究者の金田一京助は、アイヌという「原始的な人間社会の生きた標本」の研究を通じて、「文明の(2)きんだいちきょうすけ

社会」に残る古俗を解明する手がかりが得られる、とのべています（金田一九二五）。このような未開人・野蛮人としてのアイヌのイメージの形成は、日本の古代や中世にまでさかのぼるものであり、渡辺のアイヌ・エコシステム論にまで影を落としているのです。

交易のためにアイヌがどんなものをどれほど捕っていたか、少し紹介しておきましょう。

- (a) 少ないとおもわれるかもしませんが、一八〇四年に北海道・南千島・サハリン南部に暮らしていたアイヌの総人口は二万三七九七人でしたので、内陸ではアイヌの一拠点といえます。交易品となる限られた動物種の狩猟・漁撈に従事する人びととしては、その程度の人口が適正規模だったのかもしれません。
- (b) 上川アイヌはサケを捕るため犬を訓練し、一軒で飼う七頭ほどの犬が川で捕るサケだけでも二〇〇〇尾になつたという記録がありますから、この推定はけつして無謀とはいえません。増殖事業の活発な現在、北海道の河川で漁獲されるサケは三〇〇万～四〇〇万尾、岩手県では三〇万～五〇万尾ですから、上川アイヌの漁獲量の多さがわかります。
- (c) 当時、上川アイヌが移出していたのは、毛皮は年間キツネ八〇〇枚、カワウソ二〇〇枚、イタチ一〇〇〇枚、クマ一五〇枚、干鮭九万尾です。
- (d) 旭川市が位置するのは北海道中央の上川盆地です。面積は約四五〇平方キロメートルで、国内では有数の巨大な盆地ですが、ここに暮らしていたアイヌ（上川アイヌ）は、江戸時代末から明治時代はじめには三〇〇人、七〇戸ほどでした。サケの年間漁獲量は一戸あたり一三〇〇尾になりますが、当時は和人が河口で捕った塩引（塩鮭）が交易品の主体となつており、サケ資源も大きく減少していたため、最盛期には一戸あたり三〇〇〇～五〇〇〇尾、上川アイヌ全体では二〇万～三五万尾ほどのサケを干鮭として出荷していましたと私は考えています。

上川アイヌがシカをどれほど捕っていたか記録はありませんが、十勝の陸別町ユクエピラチャシ遺跡（一五～一六世紀）

では、一万頭ほどのシカが捕獲されたと推定され、五歳をこえる成獣の骨 A 、乱獲がおこなわれていたと指摘されています。

北海道のシカは一八七九年の記録的な豪雪によりほぼ絶え、以後その姿をみかけることはほとんどありませんでした。シカは現在、食害や交通事故など深刻な社会的影響をもたらすほどに増殖していますが、かれらは一八七九年の危機を生き抜いたシカの子孫なのです。

それ以前の北海道のシカ資源が途方もない量であったことは、日高の山中で山肌一面を覆うシカの大群に遭遇した江戸時代の探検家松浦武四郎の記録、あるいはオホーツク海沿岸の紋別からウトロの一〇〇キロメートル以上にわたって、日暮れになると無数のシカが集まって浜辺を茶色く染め、塩水を飲み海草を食んだというアイヌの古老の伝承などにもうかがうことができます。⁽⁴⁾ そのシカ資源の再生産に影響をおよぼすような乱獲が、かつてはおこなわれていたのです。

アイヌがなぜそれほど多量のシカを捕つていたのかといえば、（イ）自給食糧としてではありません。近世はじめに日本が東南アジアから輸入していたシカ皮は年間三〇万枚にもおよび、東北・九州・四国など全国の山間部でも競うようにシカ猟がおこなわれていました。シカ皮は武具や馬具に用いられましたが、北海道のシカもこの巨大な需要⁽⁵⁾を満たしていました。にちがいありません。

このような特定の種に極端にかたよった動物利用は縄文時代にはみられません。

一〇世紀以降、アイヌはサケの產卵場やオオワシの飛来ルートに展開したといいましたが、その結果、集落は特定の地域に集中し、周囲には広大な無住の地が広がりました。しかしそれ以前には、サケが遡上しない川筋などのいたるところに集落が設けられていました。

たとえば、石狩川水系の富良野盆地では多数の縄文時代の遺跡がみつかっていますが、サケが遡上しないため一〇世紀以降は無人の地となり、近世には上川アイヌの狩猟場となっていました。⁽⁶⁾ 縄文時代の社会の特徴を多様性とすれば、一〇世紀以降の社会の特徴は一様性・偏向性にあつたといえます。

アイヌは、古くはキツネをスマリとよんでいました。しかしキツネの毛皮が商品になると、キツネだけでなくタヌキ・テ

ン・イタチ・ウサギ・カワウソなど小型の毛皮獸をチロシヌッペ（われわれがどつさり殺すもの）とよぶようになりました。

クマなど大型の毛皮獸はチホキ（買われるもの＝商品）とよばれています（中川二〇〇三）。

アイヌの伝承「フクロウの神がみずから歌つた謡」では、飢饉に苦しむアイヌにたいしてカムイ（神）が次のようにいいます。カムイがアイヌにシカとサケをあたえないのは、アイヌがシカを捕つてもその頭を（感謝の儀礼もせず）野山に捨ておき、サケを（敬意もなく）腐れ木でたたいて殺すせいだ、と。

ここには、神があたえてくれるものへの敬虔な感謝というアイヌの思想と、商品生産によつてその思想がないがしろにされていく現実とのあいだの葛藤が語られています。⁽⁷⁾

私たちがアイヌの人びとと生きしていくうえで必要なのは、自然の摂理 Bとしてかれらをまつりあげることでは

なく、私たちと同じありのままの人間としての歴史をみつめ、それに「共感」することではないでしょうか。

私は「変わらなかつたアイヌ」論を批判してきましたが、最近、それだけでは十分ではないと考えるようになりました。

私たちが日本の伝統についておもいをめぐらせるように、アイヌの伝統の問題も論じられる必要があるのではないか。アイヌの人びとのアイデンティティの形成にとつては、「変わらなかつたアイヌ」論が批判されたうえでなお、事実に即した「変わらなかつたアイヌ」論が示される必要があるのでないか、とおもわれるのです。⁽⁸⁾

しかし、これは簡単なことではありませんでした。

たとえば、アイヌのなかに縄文文化の伝統が認められるのかといった議論は、これまでほとんどおこなわれてきませんでした。縄文時代には土器と石器が用いられ、人びとは竪穴住居に住んでいましたが、近世のアイヌは本州から輸入した鉄鍋と漆器椀、鉄の刃物を用い、掘立柱の平地式の住居に住んでいました。当然のことですが、物質文化をみればふたつの文化は大きく異なっています。⁽⁹⁾

縄文時代と近世では、たとえばゴミ処理ひとつとってもずいぶん様相がちがいます。道東美幌町のアイヌ、菊池股吉工力⁽¹⁰⁾

シ（翁）によれば、近世～近代のアイヌのゴミ処理は次のようなものでした。

住居に敷いた草が古くなると、家から二〇メートルほど離れたゴミ捨て場に捨てる。魚の骨は、ゴミ捨て場から少し離れた場所に捨てる。動物の骨は、祭壇の近くにおく。毛皮は、祭壇から離れた、みえない場所に捨てる。炉の灰は、魚の骨の捨て場に近い灰捨て場に捨てる。サケ皮の靴は、魚の骨とはべつな場所に捨てる。

アイヌのゴミ処理にはかなり複雑なシステムが存在し、その理屈は容易に理解できそうもありませんが、ゴミにはランクがあり、それにしたがつて捨て場が明確に区別されていたことはわかります。そのランクとは、動物骨を頂点として、毛皮、魚骨・灰・魚皮靴、一般ゴミという順位だったようです。

一方、縄文時代では、村のなかにつくられた貝塚に、動物も魚も灰も、こわれた道具もすべて捨てられました。ときには人間の遺体や愛犬も葬られました。ようするに、縄文時代と近世のアイヌのあいだには、ゴミをめぐる観念、（ウ）人問と生き物とモノが織りなす世界観に大きなちがいがあつたことになるのです。いずれの場合もゴミはたんなるゴミではなく、神とむすびついた有機的な世界の一部をなしていたようですが、アイヌの場合にはゴミが□しており、さらに入間がゴミの世界から遊離していた、といえそうです。

西アフリカのドゴン族は、家のまわりに家畜の粪や残飯などのゴミを放置していましたが、それはそれらが生命の循環の過程にあるので、（エ）放置していたのでした。かれらにとつてゴミだらけの環境は生命や活力を意味し、チリひとつの清潔な敷地は不毛な空間や死を意味していたのです。縄文時代の貝塚は、ドゴン族の屋敷同様、ハエやネズミがたかり、悪臭に満ちていたとおもわれますが、縄文人にとってはその臭いこそが生命や活力を意味□。

いずれにせよゴミひとつとっても、縄文時代と近世のアイヌ社会のあいだには、観念世界の大きな転換があつたことがうかがわれます。

（瀬川拓郎『アイヌ学入門』。文中省略あり。）

〔問一二〕 波線～部(一)・(二)の言い換えとしてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(一) 末裔えい ① 一派 ② 子孫 ③ 親戚

(二) ないがしろにされ ① 軽視され ② 重視され ③ 批判され
④ 称賛され ⑤ 尊敬され

〔問一二〕 傍線――部(一)「アイヌ・エコシステム」の説明としてふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① アイヌの古老からの聞きとり調査に基づく。
② 文化人類学者わたなんぶじしよ 渡辺仁がモデル化した。
③ その後のアイヌの研究に大きな影響を及ぼした。
④ 縄文時代のアイヌの自然利用をモデル化したものである。
⑤ アイヌが交易民として生きる中でつくりあげてきた。

〔問三〕 空欄（ア～～エ）に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① もちろん ② まるで ③ あえて ④ あるいは
⑤ そもそも ⑥ さながら ⑦ ひいては ⑧ しかし

〔問四〕 傍線――部(2)「金田一京助」のアイヌ文化研究に対する著者の評価としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 国語学の泰斗でもあり、アイヌ文化から日本の古俗を見事に解説した。
② アイヌは未開人・野蛮人だというイメージを初めて作り上げた。
③ 渡辺のエコ・システム論を元に、アイヌのイメージを形成した。
④ 「変わらなかつたアイヌ論」の弊害を早くから指摘していた。
⑤ アイヌ文化は原始的だという否定的なイメージの形成に加担した。

〔問五〕

段落(a)～(e)の並べ方としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ⑤ (d) (b) (c)
③ (a) (e) (a)
① (e) (a) (b)
④ (b) (c) (d)
(c) (d) (e)
- ② (d) (e)
(a) (c)
(c) (a)
(e) (b)
(b) (d)

〔問六〕

空欄

A

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① は発見されていないにもかかわらず
② が発見されたことにより
③ がほとんどみつかることから
④ ばかりみつかつてゐるため
⑤ が発掘されていないとはいえ

〔問七〕 傍線――部(3) 「うかがう」と同じ意味の「うかがう」を用いた文を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 御意見をうかがうことは可能でしょうか。
- ② そこから彼の真意をうかがうことは不可能だ。
- ③ 大変貴重なお話をうかがうことができた。
- ④ 明朝、うかがうことにしていただします。
- ⑤ 鍵穴から中をうかがうのは失礼だ。

〔問八〕

傍線――部(4) 「その」が指す内容としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 塩水を飲み海草を食んだ
- ② 途方もない量であつた
- ③ 松浦武四郎の記録に残された
- ④ 一八七九年の危機を生き抜いた
- ⑤ 深刻な社会的影響をもたらす

〔問九〕

傍線――部(5) 「需要」の対義語としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 徵発
- ② 販売
- ③ 供給
- ④ 支給
- ⑤ 必須

〔問十〕

傍線――部(6)「縄文時代の社会の特徴を多様性とすれば、一〇世紀以降の社会の特徴は一様性・偏向性にあった」と考えられる理由してもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 北海道には、縄文時代は様々な民族と多種の動物が暮らしていたが、一〇世紀以降はアイヌと特定の種の動物しか住まなくなつたから。

② 多数の縄文時代の遺跡が見つかっている石狩川水系の富良野盆地は、一〇世紀以降は無人の地となつてしまつたから。

③ 一〇世紀以降は、縄文時代にはなかつた交易が始まり、その相手も日本に集中するようになつたから。

④ 縄文時代には様々な動物を利用し各地に暮らしていたが、一〇世紀以降は捕る動物も住む場所も限定されるようになつたから。

⑤ 縄文時代に区別していた様々な小型の毛皮獸を、一〇世紀以降はすべてチロンヌップと呼ぶようになったから。

〔問十二〕

傍線――部(7)「ここ」が指す内容としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① シカやサケに対する敬意の喪失
- ② アイヌの思想と現実とのあいだの葛藤
- ③ カムイがアイヌにシカとサケをあたえないこと
- ④ 飢餓^{ききん}に苦しむアイヌ
- ⑤ 「フクロウの神がみづから歌つた謡^{うた}」

〔問十二〕

空欄 B

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① を表現する神のような存在
- ② を支配する神のような存在
- ③ を十分に理解した科学者
- ④ に逆らわない動物
- ⑤ にひれふす奴隸

〔問十三〕 傍線――部(8)「事実に即した「変わらなかつたアイヌ論」」の説明としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 文化人類学者の渡辺仁わたなべひとしらが提示した説
- ② 繩文文化の伝統を強調する説
- ③ 客観的データに基づくアイヌの伝統論
- ④ 時代による変化を無視したアイヌ論
- ⑤ 物質文化に即して組み立てる論

〔問十四〕 傍線――部⁽⁹⁾「アイヌのなかに縄文文化の伝統が認められるのか」という問い合わせに対する筆者の答えとしてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 近世のアイヌ文化と縄文文化には共通点がいくつか見いだせる。
- ② ごみ処理に関しては、近世のアイヌ文化と縄文文化にも共通点が見いだせる。
- ③ 物質文化に着目すると、近世のアイヌ文化と縄文文化は大きく異なっている。
- ④ 精神文化に着目すると、近世のアイヌ文化と縄文文化には多くの共通点がある。
- ⑤ この問いはこれまでほとんど議論されていないので、何も言えない。

〔問十五〕 傍線――部⁽¹⁰⁾「ごみ処理」に対する筆者の考え方とともにふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 近世のアイヌの方が縄文時代より、清潔で文明的である。
- ② 何でも捨てられていた縄文時代の貝塚は、不潔なだけでなく野蛮である。
- ③ アイヌのゴミ処理のシステムはかなり複雑だが、迷信に基づいているに過ぎない。
- ④ アイヌが物によつて捨て場を明確に区別しているのは、現代のゴミの分別と同じである。
- ⑤ ゴミ処理法には単にゴミの扱い方のみならず、世界観も映し出されている。

〔問十六〕

空欄 C

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 階層化 ② 多様化 ③ 均一化 ④ 複雑化 ⑤ 神聖化

〔問十七〕 傍線——部(1)「人間がゴミの世界から遊離していた」と考えられる理由としてもつともふさわしいものを、次の

①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 家のまわりにゴミを放置していたから。
② 家の中をチリひとつない清潔な状態にしていたから。
③ ゴミの種類によって捨て場が明確に区別されていたから。
④ 人が暮らす家から離れたところにゴミを捨てていたから。
⑤ ゴミが神とむすびついた有機的な世界の一部をなしていたから。

〔問十八〕

空欄 D

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① するべきだったのです
② せざるをえなかつたのです
③ していなかつたはずです
④ していたのかもしれません
しなかつたかもしれません

【解 答 例】

入試年度 : 2019
入試種別 : 一般入学選考
A日程 1日目
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	1
2	3
3	5
4	2
5	4
6	3
7	5
8	1
9	6
10	4
11	2
12	1
13	4
14	2
15	1
16	5
17	3
18	2
19	2
20	3
21	1
22	1
23	2
24	1
25	4

問No.	解答番号
26	8
27	1
28	7
29	3
30	5
31	4
32	3
33	2
34	2
35	3
36	4
37	5
38	1
39	3
40	2
41	5
42	1
43	4
44	4
45	—
46	—
47	—
48	—
49	—
50	—